

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

アジア経済に大震災の影響が垣間見られる(Asia Weekly (5/23~5/27))

~4-6月期の景気の下押し要因になる可能性は高まっている~

発表日:2011年5月30日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/23 (月)	(タイ) 1-3 月期実質 GDP (前年比)	+3.0%	+2.6%	+3.8%
	(前期比/季調済)	+2.0%	+2.2%	+1.3%
	(シンガポール) 4 月消費者物価 (前年比)	+4.5%	+4.4%	+5.0%
	(台湾) 4 月商業販売額 (前年比)	+4.87%	+6.36%	+7.44%
	4 月鉱工業生産 (前年比)	+6.85%	+12.20%	+13.82%
	4 月失業率 (季調済)	4.35%	4.34%	4.42%
	(香港) 4 月消費者物価 (前年比)	+4.6%	+4.6%	+4.6%
5/24 (火)	(ベトナム) 5 月消費者物価 (前年比)	+19.8%	-	+17.5%
5/26 (木)	(シンガポール) 4 月鉱工業生産 (前年比)	▲9.5%	▲3.5%	+26.3%
	(前月比/季調済)	▲16.3%	▲8.6%	+25.8%
	(香港) 4 月輸出 (前年比)	+4.1%	+18.0%	+21.5%
	4 月輸入 (前年比)	+6.1%	+16.3%	+18.8%
5/27 (金)	(タイ) 4 月製造業生産高 (前年比)	▲7.81%	▲4.80%	▲6.69%

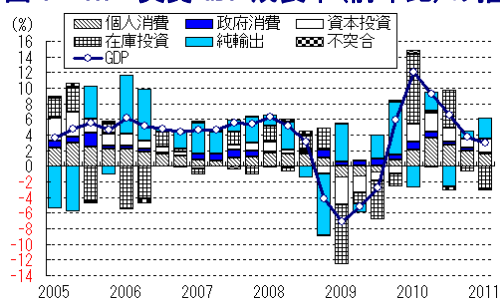
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[タイ] ~内・外需の堅調で1-3月期の景気は加速するも、4月以降は大震災の影響が懸念される~

23日に発表された1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+3.0%となり、前期(同+3.8%)から鈍化した。ただし、前期比年率では+8.4%と前期(同+5.2%)から加速しており、景気は堅調に推移している。世界経済の回復を背景とする輸出増加が景気をけん引し、設備投資など資本投資も加速した。足元の物価上昇は個人消費の重石となりつつあるが、雇用の改善により底堅さもみられる。海外資金の流入による過剰流動性は物価の上昇要因となっている一方、内需を押し上げている。

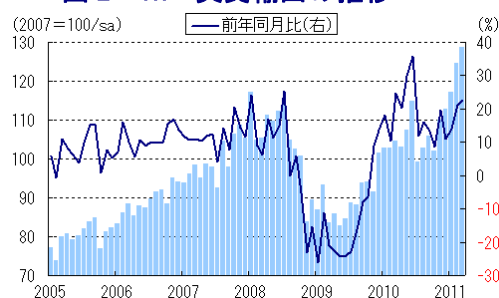
一方、27日に発表された4月の製造業生産高は前年同月比▲7.81%となり、前月(同▲6.69%)から減速した。前月比も▲3.30%と前月(同▲0.70%)を上回るマイナスとなり、4ヶ月連続で減少した。平均設備稼働率も54.57%と前月(66.08%)から▲11.51pも低下しており、東日本大震災による部材供給網の寸断で自動車関連を中心に部材不足が生じて生産は下押しされた。足元では自動車の出荷・在庫バランスの改善に頭打ちの兆しもみられ、インフレと金融引き締めによる需要面への悪影響も懸念される。当面の生産には下押し圧力が予想される。

図1 TH 実質 GDP 成長率(前年比)の推移



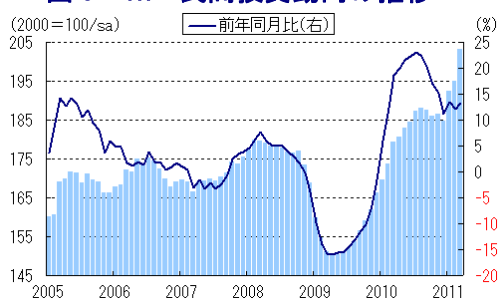
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TH 実質輸出の推移



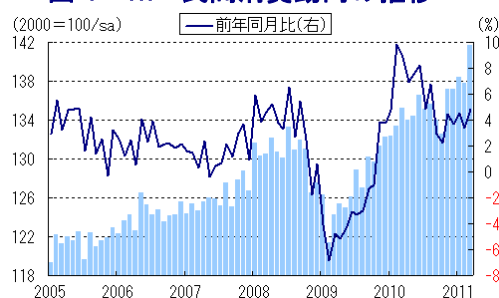
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TH 民間投資動向の推移



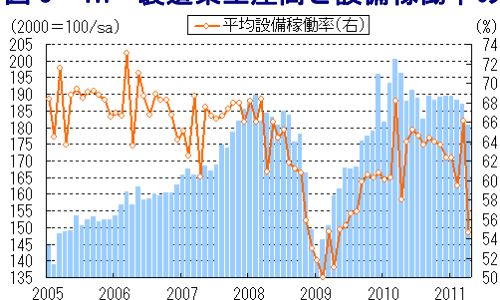
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 TH 民間消費動向の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 TH 製造業生産高と設備稼働率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 TH 自動車関連の出荷・在庫バランスの推移



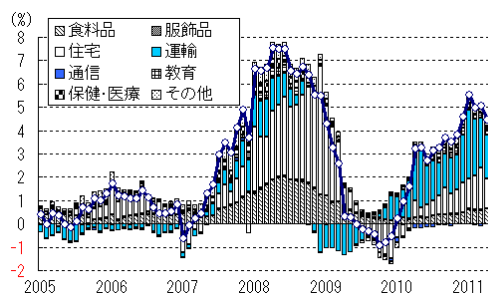
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～通貨高による物価抑制は効果を挙げている。短期的な生産下押し懸念は続こう～

23日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+4.5%となり、前月(同+5.0%)から減速した。前月比も+0.01%と前月(同+0.33%)から上昇ペースは鈍化。食料品やエネルギーなど生活必需品の価格は依然上昇しているが、通貨SGドル高により輸入物価が抑制されたほか、融資規制などにより住宅価格の上昇に一服感が出ていることも影響した。金融当局は今年4月、SGドルの名目実効為替レートの変動域を3回連続で上方修正することで実質的な切り上げを容認しており、今後もこうした姿勢は継続されよう。

26日に発表された4月の鉱工業生産は前年同月比▲9.5%となり、17ヶ月ぶりにマイナスに転じた。前月比も▲16.3%と前月(同+25.8%)から減少に転じており、前月+97.2%と大きく増加したバイオ・化学関連が同▲31.6%の大幅減少になったほか、その他も同▲6.2%となるなど、全般的に生産が縮小している。同国でも東日本大震災による部材供給問題は短期的に生産活動の足かせとなる可能性があり、は貿易量の縮小も懸念される。

図7 SG 消費者物価(前年比)の推移



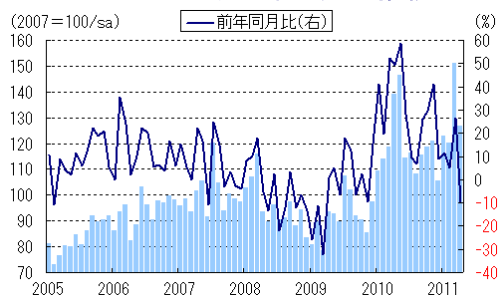
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 SG 為替相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 SG 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 SG 実質輸出の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

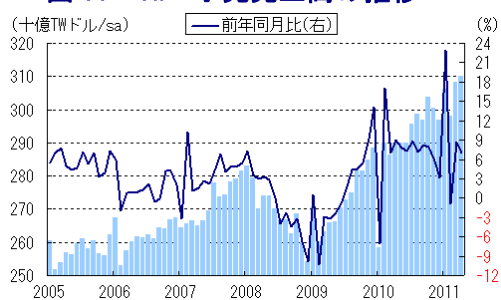
[台湾] ～部材調達問題や水不足などが生産を下押し。雇用は依然堅調だが、先行きに調整懸念は燻る～

23日に発表された4月の商業販売額は前年同月比+4.87%と、前月(同+7.44%)から減速した。前月比も▲0.62%と2ヶ月ぶりに減少に転じている。小売売上高は同+0.54%増加したが、前月(同+3.49%)から上昇ペースは鈍化しており、足元の物価上昇や金融引き締めが個人消費の重石となっている。個人消費の低迷を反映して、卸売上高は同▲1.14%の落ち込みをみせた。先行きも物価上昇や金融引き締めは消費の下押し圧力になろう。

同日発表された4月の鉱工業生産は前年同月比+6.85%となり、前月(同+13.82%)から減速した。前月比も▲3.78%と3ヶ月連続で減少しており、減少率は前月(同▲0.99%)を上回っている。東日本大震災によるサプライチェーンの寸断や、水不足による工業向けの取水制限で、主要産業である電子デバイス関連の生産に影響が出ている。足元では梅雨入りによる雨量増加で給水制限に緩和の兆しも出ているが、しばらくは生産の制約要因になろう。

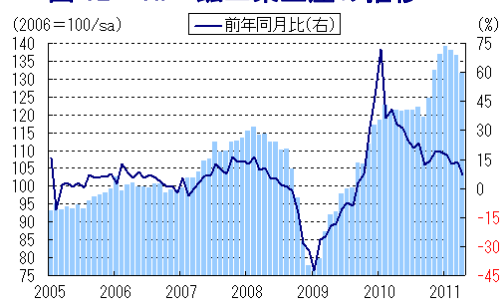
一方、同日に発表された4月の失業率(季調済)は4.35%となり、前月(4.42%)から0.7p改善した。雇用者数は前月比+1.5万人と7ヶ月連続で増加し、失業者数は前月比▲0.7万人と19ヶ月連続で減少するなど、雇用環境の改善は続いている。足元の生産は依然堅調に推移しているが、先行指標である輸出受注に頭打ち感が出ていることや部材調達問題により、先行きの生産に下押し圧力が高まり、雇用に悪影響を与える可能性が懸念されよう。

図 11 TW 小売売上高の推移



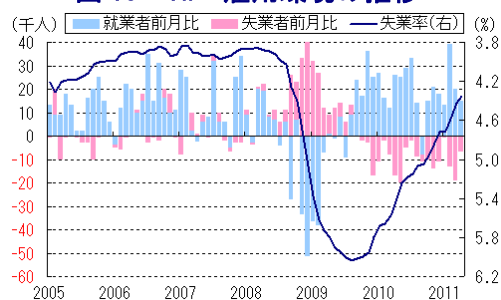
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 12 TW 鉱工業生産の推移



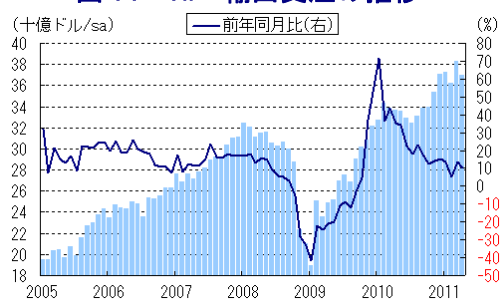
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 13 TW 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 14 TW 輸出受注の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上